

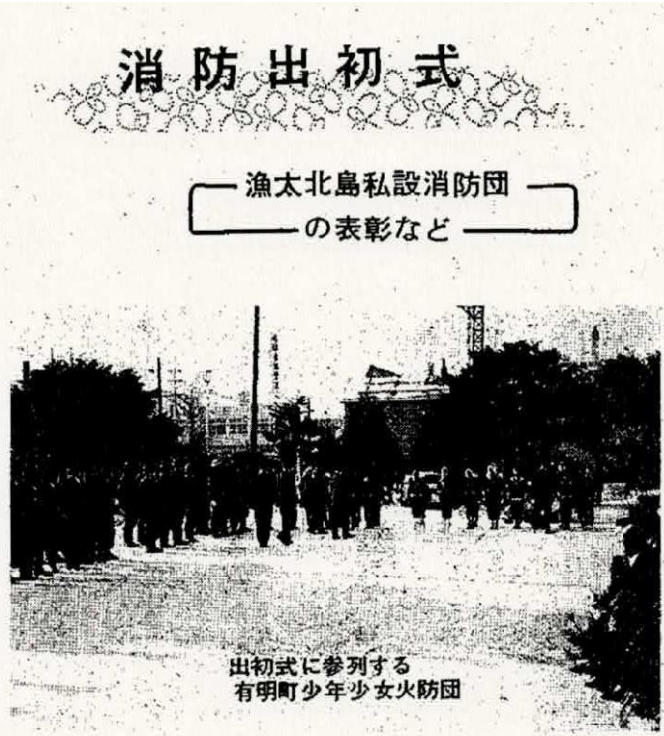
広報誌で見る恵庭消防の歩み 2

1970～1979(昭和 45～54)年

昭和 45(1970)年 1 月

一月八日午前十時役場庁舎前で消防出初式が行なわれました。当日は田中町長をはじめ多数の来賓と、常勤消防職員、消防団員、自衛隊消防隊員など約一八〇名、消防車八台が参加、西村消防長の訓示、田中町長の挨拶に始まり、永年勤続者の表彰(北海道・恵庭町)十三名、団体五、個人一が行なわれました。

今回の表彰のうち団体では漁太北島両私設消防団が発足以来独自に部落会で運営し、町の消防に貢献したのが認められたものです。又個人表彰の島田さんは、ここ数



年来自宅横消火栓の除雪と消防機械を整備するウエース(ほろぎれ)を毎年寄贈するなど、その善意な行動に対して行なわれました。

表彰者のお名前

恵庭町

三十年 ▽高橋勲▽吉本政義▽杉

山陽三▽米沢堯▽橋本光義▽川股

一幸

十年 ▽安永昭利

北海道

十一年 ▽小笠原力夫

十年 ▽安永昭利

功 績

▽浅野重雄▽松本与四郎▽原田徳

昭和 46(1971)年 1 月

消防出初式

「永年勤続者」の表彰など

一月八日、消防出初式が市役所前で行われました。

当日は、道災害消防課長をはじめ多数の来賓と消防職員、消防団員、自衛隊消防隊員等約百六十名、消防車九台が参加、西村消防長の訓示、西井助役の挨拶のあと市役所前通りを分列行進、引続いて永年勤続者の表彰が行われました。北海道表彰



堂々と分列行進

▽水野守▽辻永政義▽矢野秀彦▽中島忠▽中村長利
恵庭市表彰

二十年以上

▽山田義雄▽前田忠義▽野原秀雄
▽高倉香苗

十年以上

▽小玉連吉▽島田実▽松岡光男▽藤田昭彦▽松崎享▽水野守▽中村長利▽辻永政義▽中島忠▽矢野秀彦▽水上勝弥▽加藤誠▽池田義男

▽青木貞光▽野替光男
▽島亘▽桒本仁▽島上光雄▽藤沢茂▽佐々木勝雄▽北川敏雄▽橋本忠

北海道消防協会表彰

功績章

▽高橋勲▽佐垣嘉寿雄

▽吉本政義▽東野博則

▽米沢堯▽杉山陽三▽橋本光義▽川股一幸

三十年以上

▽平中登志清▽松本与四郎

二十年以上

▽山田義雄▽前田忠義

▽野原秀雄▽高倉香苗

十年以上

▽小玉連吉▽島田実▽松岡光男▽藤田昭彦▽

松崎享▽水野守▽中村長利▽辻永政義▽中島忠▽矢野秀彦▽水上勝弥▽加藤誠▽池田義男▽青木貞光▽野替光男▽島亘▽桒本仁▽野上光雄▽藤沢茂▽佐々木勝雄▽北川敏雄▽橋本忠
感謝状(遺囑者)
▽高田武男▽原田徳次郎

昭和 46(1971)年 6 月

1日消防士の体験

春日 河尻ユキ子



火事は人間の尊い生命、財産を瞬時にしてうばつてしまふ。考える程に何よりもそのおそろしさを感ぜさせる事からです。この重大な任務に挺身される消防の皆さんの日頃のご苦労はどうか私なりに関心を持つておりました。今年の春季火災予防運動の一つとして挙げられました「一日婦人消防士」の体験があると聞き地域から選ばれまして家庭の主婦である私が今回貴重な体験をする機会を得ました。四月三十日九時三十分頃鉄筋コンクリート二階建ての恵庭市消防本部庁舎へ。私同様各町内から選ばれました主婦（三十代か

四十代）の皆さん八名が集合し西村消防長さんから辞令と美しいリボンの交付を受けました。この短時間の行事ですが厳肅な雰囲気は、学校当時以来味わうことのなかった私としては身の引き締る思いでした。その後、西村消防長さんから当市の消防概況を詳細に亘つて説明ありましたがその一部を申し上げますと現在消火栓は百十五で年内には百二十二、貯水槽も恵庭市街と島松市街を合わせて十二ヶ所にありますが水の確保はまだまだ完全でないとのことでした。火災も年々増加しており春先の野火は今年には特に多く四月まで十四件も発生しています。火災が発生した時は電話、有線何れでも一一九番を利用することで、その際はかならず住所と名前を忘れず言つて頼めば知らせを受けた消防署では四十分の早さで消防車は出動し、その後には積んでいる無線機で不明なことを正しながら目的地へ向うとのこと、当市にも近代的な機械が整備されていると聞き力強く感じました。又、消防車には水を二時半積載しているためあまり速度を出せないとのこと、一寸残念に

思いましたそれからサイレンの吹鳴のことですが、火災の大きなおそれのある時はサイレンをならし、その他の時には地域を限定してならすこともあるとのこと、それは市民に必要以上に不安感を与えることをさける意味からとのことでした。その他、消防施設の状態を見学しました。赤い大きな車が無線機、ホース、水等を積み万が一に備え即応態制下にある姿に接し一段と心強く頼もしさに胸をうたれました。この車の一台の値段が三百数十万円から四百万円余とのことでした。又、当市の今後の発展に伴いポンプ車のみでは不十分でハンゴ車や化学消防等も必要とのこと、なる程、高い建物の火災の時には、ほしいものも無理はないと思ひました。その他の装備品をあげてみますと、風向風速、温度計等の気象関係機器や酸欠呼吸器化学防火衣等の近代的名品も備えていました。午後一時から放水訓練に私達が行くことになり、消防靴と出動服、それに帽子を職員の方々に手伝つていただき身につけましたが約六キロログラムの重さでした。こんなのを着て働く消防署の方は大変ご苦労なことと思ひました。初めて乗る消防車、なんだかドキドキして来ました。漁川橋の川岸にていよいよ太いホースから水が出た時は壮大なながめでした。百メートル位飛び太く出したり細く遠くまで出せ

るようになってくる口がついて調節されるようになっており、なかなか体力のいるものでした。燃えているガソリンに消火器で消す訓練も思ひましたが油はなかなかきえにくいと思ひました。訓練を終つて帰署後は、係長さん以上の方と懇談会に入りました。石油スタンドの許可や建築確認の仕事も消防署で行つているとのこと、又、ガソリンのように引火点の低いものは振つている時間が長いと、静電気が起き、発火する等、大変有意義なお話しも聞きました。又、本署職員並びに地域団員の不足していること等、いろいろな問題はあ

るようですが皆さん一生けん命努力しておいでの子には感心しました。「マツチ一本火事のもと」本場に火事はおそろしいものですが油断してはならないと思ひます。



火 車 は 1 1 9 番 消 防 に



- 新建材や化繊は燃えると大量の煙と一酸化炭素を出します
- 逃げ遅れると、中毒になり身うごきができなくなります
- 火災が起きたら、一刻も早く避難しましょう

市民の安全を確保

消防総合訓練

恵庭市消防総合訓練大会が、去る九月七日恵庭公園で開かれました。

この訓練は、消防職団員の士気高揚、規律の練磨、技能の演練を行ない、火災その他の有事に際しその機動力を十分に発揮出来るよう毎年行なわれているもので、午前六時不時招集のサイレンと共に消防職員、北恵庭駐とん地消防隊など二二〇名、ポンプ車十台が参加、分列行進、小隊訓練、ポンプ操法などのあと、漁川岸に車輛を並べ豪快な一斉放水訓練を行ない終了しました。



消防放水訓練

昭和 47(1972)年 1 月

消防出初式

永年勤続者の表彰など

小雪のちらつく一月八日、消防出初式が市役所前の広場で、盛大に行なわれました。

この日は道消防協会長を初め、多数の来賓常備消防職員、消防団員、自衛隊消防隊、ハッピ姿も可愛らしい有明消防少年隊など約百三十名と消防自動車などの参加の中で、消防長の訓示、助役の挨拶のあと公民館において永年勤続者の表彰が行なわれました。

北海道表彰



勤続二十年以上

▽山田義雄▽前田忠義▽野原秀雄

▽田中民夫▽高倉香苗

勤続十年以上

▽小玉運吉▽島田実▽藤田昭彦▽

松崎享▽松岡光男▽小玉富吉▽藤

沢茂▽佐々木勝男▽水上勝弥▽加

藤誠▽池田義雄▽青木貞光▽野替

光男▽島亘▽埜本仁▽島上光男

恵庭市表彰

勤続三十年以上 ▽溝口初雄

勤続二十年以上

▽田中民夫

勤続十年以上 ▽小玉富吉

北海道消防協会表彰

三十年以上 ▽溝口初雄

二十年以上 ▽田中民夫

十年以上 ▽小玉富吉

感謝状(退団者) ▽宮崎敏雄

▽米沢亮 児玉勇

感謝状(消防協力者)

▽中島チヨ

(敬称略)

昭和 47(1972)年 7 月

春季火災予防運動期間中の四月二十八日、一日消防士として、市内十名のご婦人が、西村消防長から一日消防士として委嘱を受け、消防概況の説明のあと、消防施設の見学、放水訓練の参加と、いそがしい一日を送りました。

その方々より感想文が寄せられております。

●一日消防士を委嘱されて

思うこと
このたびは、私のようなのが一消防士に委嘱されて本当に恐縮いたしました。依頼を受けたときから、この日のことを心配しておりましたが、職員ひとりひとりのあたたかい応待、さらにはいいご指導下さいましたのではっといたしました。

一日消防士をかえりみて

消防長さんを始め、各係の方からも色々なお話しやご説明をいただきました。「消防は火災がなければ別にこれといった仕事はない」と思っておりましたが、立派なまちづくりのため、市民の尊い生命、貴重な財産を火災から守るために、色々な仕事がたくさんあることを知り、その重要性を感銘しました。また、消防車、通信施設なども、ずいぶん近代化されているので驚きました。その反面、

庁舎が狭いように感じました。事務室、宿直室については、まもなく新職員が四名入るとききました「どうするのだらう」と心配になりました。毎日活躍されている消防職員の皆様にはお気毒に思いました。

一日も早く大きな庁舎が新築されることをお祈りします。それから、作業に出られる時、あの重い防火衣装などを、手ばやく身につけ、消火作業に行く姿こそたのもしく思い、これまでに比べると、相当の訓練を行っているものと考えました。私たちも生まれて初めて消防車に乗って、目的地に到着し、放水訓練を、手にとるように教えていただき放水しましたが、うしろの方に引かれて、ずい分、力のいる仕事であるとびっくりしました。短い時間でありましたが



有意義な一日でした。最後に消防長さんを始め、皆様方のお体に気をつけられまして、惠庭市から火災のない明るい住みよいまちがつくられることをお祈りいたします。

■ 寄稿者はつぎの方です

▽塚田マツヲ(中央)▽山田まさ(漁太)▽山田ひさの(上山口)

▽小管洋子(島松寿町)

火災損害額

二倍に

●春の火災運動より

四月二十日より一ヶ月間春の火災予防運動が、実施されましたがその結果件数は昨年と同じですが損害額が二倍となり、火災が年ごとに大きくなる傾向にあります。一人一人が火災の恐ろしさを知り、火災予防の知識向上をはかり住みよいまちづくりに努力しましょう。

■ 春季火災予防運動期間中の火災概況

区	分	昭和47	昭和46	増減
出火件数	4	12	△8	
建物火災	3	3	0	
林野火災	1	1	0	
その他火災	0	8	△8	
焼損棟数	6	3	3	
焼損世帯	2	2	0	
焼失面積(m ²)	484	69	415	
損害額(千円)	2,465	1,330	1,135	

昭和47(1972)年8月

消防の功績に

勲六等単光旭日章叙勲

山本信一さん

昭和四十七年春の叙勲で、惠庭市消防団の育ての親として消防の発展につくされて来ました山本信一さんが、日頃の功績がみとめられ、自治功勞者として勲六等単光旭日章が授与されました。

◎功績

山本信一さんは市内春日地区で農業を経営されるかたわら、大正八年に当時の私立惠庭火災予防組合の消防手として、火災や災害の防止関係に第一歩を踏み出され、

大正十二年惠庭村の消防団に入ってから四十三年間もの長い間、三分団長や惠庭消防副団長・団長など消防員として多くの功績を残されました。

またその間、議會議員・民生児童委員・社会福祉協議会監事や農協同組合理事・土地改良区理事など多くの公職にもつかれ、数回にわたって表彰を受けるなど、日頃から市行政に尽力された功績が認められこのたびの叙勲となりました。



昭和47(1972)年11月

雪がちらつき、各家庭では暖房器具の取り付けも終わりましたが、この時期は、火災も多く発生する季節です。

恵庭市消防本部では、十月十五日から三十一日までの間、秋の火災予防運動を実施し、市民のみなさんに、防火を呼びかけておりましたが、先日、市内で大きな火事が続けて、発生しておりますので、



市民のみなさんも、十分注意しましょう。また、この運動期間中は、市内の各学校や工場などで、避難(消火器)訓練を実施したり、一日消防士の記念事業が行なわれました。

市内の中学生 十名が一日消防士に

秋季火災予防運動期間中の十月二十二日、市内の中学生十名が、一日消防士として、消防衣装を身に付け、ホースを持ち、いそがしい一日でした。

その中学生たちから、感想文が寄せられております。

一日消防士

■ 一日消防士 ■ ■ 一日消防士 ■

わたしは一日消防士になって、とても勉強になりました。

まず消防署のことについて感じたことは、建物が非常に狭く、ご苦労されていることです。わたしは今まで、消防署員の方は、火災や災害のある時だけ出勤するだけだと思っていましたが、火災や災害があってもなくても、みんな、緊急の時にそなえて毎日、訓練、消防自動車の手入れなど、めまぐるしく働いていました。

消防長さんのお話しでは、自分たちの不始末で火事を起すことが多く、火のあと始末さえきちんとならなければ、火災は防げると聞きましたが、火災を起してから後悔して



広
報

えにわ

市民憲章（4月の実施目標）

◇知性をたかめ、かおりゆたかな文化のまちをつくりましょう◇

（実施したこと、或は行ない始めたことがありましたら広報係へお知らせ下さい。）



◎ ハ ッ ピ 姿 で 火 の 用 心 ◎

= 有 明 少 年 火 防 団

消 防 長 官 表 彰 を 受 け る =

市内のチビッコ消防団、有明少年火防団（伊藤玲子団長、団員190名）の子どもたちが”ほくたちのマチから火災を出すな”と火災予防を呼びかけ、その成果がみとめられて3月30日、東京で晴れの消防長官表彰を受けました。

この少年団は昭和41年、子どもたちの育成と団結のためにつくられたもので、火災防止シーズンや歳末などには、おそろいのハッピ姿で”火の用心”と夜廻りをして今までに、恵庭市消防長表彰や全国少年消防クラブ運営指導協議会から感謝状、記念品が送られておりますが、”これからもほくたちの手で”と張り切っております。

昭和48年4月1日発行（第225号）

（発刊 恵庭市役所）

消防五十周年記念式典

総合訓練大会は十日

7日10時にサイレン

大正十二年四月、市内で初めて公設の恵庭村消防組が設置されて、早くも五十年を迎えます。

恵庭市消防本部ではこれを記念して七月七日(土)午前十時から恵庭公民館で五十周年記念式典を行います。

昔は手押しポンプが主力で、火災が発生すると消防組の方々が火災現場まで手押しポンプを引いて駆けつけ、ハッピ姿でマトイを持って消火にあたったそうです。その後、消防ポンプ自動車が登場

入されたり常備職員が配置されるなどして、現在の消防体制が整いました。

また七月十日(火)午前十時からは大町から桜町までの旧国道の間で市内パレードを行なったあと石狩管内の市町村から十七の消防団の方々が集まり、旧恵庭南高校グラウンドで消防操法や規律訓練など札幌地方支部の消防総合訓練大会が行なわれます。

多くの市民の皆さんの観覧と心からの応援をお願いします。

消防設備士試験

九日まで申込を

試験の種類

- ・ 甲種第一類から第五類まで
- ・ 乙種第一類から第七類まで

受験の手続

消防本部にある受験願書に記入して七月九日まで道総務部消防課(札幌市中央区北三条西六丁目)に提出してください。

※郵送の場合は当日消印有効

試験日

八月九日、十日。札幌市で
※くわしいことは消防本部へ
電話三局三三三二八七



昭和 48(1973)年 10 月

秋の火災予防運動始まる

26日消防訓練のサイレンを朝6時に



十月十五日から三十一日まで火災予防運動を行なっています。この季節は火災の発生が多くなりますので、私たち市民一人一人が注意をして火災のないまことにしたいものです。この期間中「隣にも声かけあってよい防火」の標語のもとに二十八日には消火器使用の実演会を、恵庭市街ではさかえ公園と恵央団地の中の公園で、島松では公民館の横の空地で行ないます。皆さんで見学してください。

なお期間中は午後九時に三十秒のサイレンを鳴らします。火災はほんのりとよとしたことが原因で起ります。いつも火の元には注意を。
・ ストープやコンロなどの熱器具のそばに燃えやすいものを置かない。
・ タバコやマッチの扱いを十分に寝る前、出かける前には再点検
・ いつもバケツ一ぱいの水を
・ 火災になったらまず消防に
・ 老人、子供を先に避難させる

昭和 49(1974)年 4 月

消防の島松分遣所 が 改 築

火災から市民の皆さんの生命や財産を守る消防関係事業としては、島松地区の分遣所の改築工事を進めています。
場所は島松東町でブロック造り平屋建の近代的な建物になります。

昭和49(1974)年6月

ひろば ヒロバ ひろば

市民の ひろば 月かよ

「一日消防士」

清水 津谷子

島松から二人、朝九時きっかりに消防本部にたどり着いた。各地区婦人代表十名と消防署側数人が入ると、身動き出来ぬほどの狭い消防長室で一日消防士の辞令を受け取る。

病院の必要性を痛感する。化学自動車も生活様式の変遷で、今後使用される可能性が充分であり備えて欲しい物の一つである。
火災の原因で多いのは、子供の火遊びで昨今灯油の火災もふえる一方という。その中でも不注意（ふせげる火災）によるのが多いのは残念でならない。
お話が終ると、各施設を見学した。まず二階の仮眠室、二段ベッ
トになっていて常時十数名が待機しているという、こっちは狭い。
階段を降りると、勤務室（指令室）である。各種の電話が置かれ、録音装置、逆信号など一カ所に扱いやすくなっている。消防自

動車の装備品の説明、救急車にもこれが初めて最後であるように折りながら乗ってみた。とても薬品くさい。乗員二人と聞き過重な任務に身体をこわさないでとつぶやく。
後、実地訓練を見学する。ベルが鳴ってから四十秒位で前庭に整列する。すでにちゃんと服装を整えている。これなら大江美智子（剣劇俳優）もかなうまいと思うほどの早業である。とうとう私たちの消化器の実施訓練。もうもうとたちこめる煙と共に燃える火の前に、あわてているせいか消火器もうまく扱えない。救メートル先の火でも恐しきにおののく。
一日大事な仕事を見せていただいたが、消防士さんだけには、活躍の場を与えてはいけないと強く念じている。
ほかに、五人の方からも一日消防士の感想文が寄せられています。が、紙面の関係で載せることができませんでしたのでご了承ください。

昭和50年(1975)年6月



一日消防士

市の消防本部では、4月20日から5月19日までの1ヶ月間にわたって、春の火災予防運動を展開、いろいろな行事を行いました。

4月30日には、市内の主婦8名に一日消防士をお願いしました。

この日は、消防の仕事や機械の説明、出動訓練などを見たあと、実際にホースをにぎり、放水訓練。「水圧で飛ばされそう」と感想を少し。

(写真は、放水訓練でハッスルする主婦のみなさんの一コマです)

交通事故死ゼロ二百日作戦
目標まであと百六十日
(五月二十一日現在)

一日消防士になって

京町七六 上松 静子

春季火災予防運動行事の一環として去る五月十日好天に恵まれた当日、市内各町内からなる婦人部代表の一員として「一日消防士」に参加させて頂きました。

午前九時、消防本部庁舎本部長室にて、消防長始め各担当者の挨拶の後消防機関と業務状況の説明、消防署内の施設の見学。火災救急出動訓練、また、防火対象物立入検査の見学として、市内の市民生

説明の中にもありましたように交通事故全国一位、火災全国二位という誠にありがたい不名誉なことです。

各町内会始め、全市住民に至るまで自発的に防火に対する関心を深め、一人一人各自のわずかな注意が火災を未然に防止出来る場合が多いことを常に心がけ、火災発生件数を一件でもなくしたいものです。

ここにあらためて、消防に対する認識をあらたに、考えさせられた有意義な一日でした。

協の施設など……数多いスケジュールの中で、特に一秒の遅れも許されぬ緊急出動の訓練には、隊員の皆様方が日々の教養と訓練の充実があつてこそ、きびきびとした活動的な態度が得られるのだと感心させられた次第です。

最近テレビや新聞でも報道される数多いニュースの中に、火災における建物の焼失および傷死者の多い痛ましい事故が目につきます。



広報

えにわ

市の人口

男	21,572 (+ 46)
女	20,013 (+ 67)
計	41,585 (+113)
世帯数	13,394 (+ 26)

8月末現在

() は前月との比較



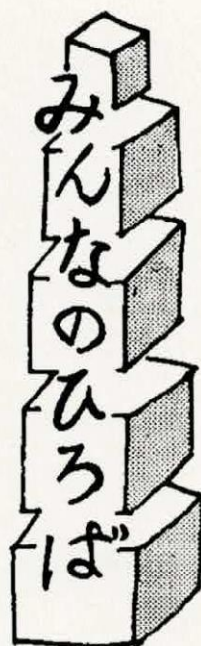
昭和52年

消防総合訓練大会

火災のない街を願って
訓練に励む消防団員

10

No.303号



一日消防士に参加して

林田 65 山口 幸子

朝 9 時、消防長室で三浦正消防長さんより委嘱状をいただき、胸にリボン、肩には一日消防士と書かれたタスキを掛け、立候補でもするような格好でお話を聞きましました。

昭和 52 年度における火災出火件数は、過去 10 年間の中では最も低い出火件数となっていて、この結果としては恵庭市消防職団員の一般家庭に対する防火査察を徹底したことや、各企業・学校の消火、避難訓練の積極的な実施等による成果であることが、よくわかりました。

火災の原因としては子どもの火遊び、ストーブ等燃焼器具、電気装置等が多く、ちよつとした不注意が大火になることを改めて認識しました。

次に警防課長さんより消防機構と業務についての説明があり、その中で消防本部の企画部門では、現在火災予防にウエイトをおいて

いるという。火は消すことも大切であるが、火元にならないように一人一人が気をつけ、家庭では主婦である私たちが、最後の火元点検責任者にならなければと思いましたが、外に出てから、救急車出動訓練を見せただきでしたが、前のボタン 3 個止めるより、ファスナーだったらより早くできて、活動しやすいのではないかと考えました。

最後に恵庭ファミリイデパートの防火施設を見学に行きました。天井には直径 5 センチほどの丸い形のスプリングラーという、市の水道の 3 倍もの圧力で半径 2 メートルの範囲に水が出る施設や、階段を囲むように防火シャッターが降りるようになっていたり、いずれも火災発生と同時に自動的にその働きをするようになっており、普段買物に行つて見てはいても、あれはなんだろうぐらいにしか思つていなかったたので、細かくわか



(職員の説明に耳を傾ける 1 日消防士)

りやすい説明を聞き、防火に対する施設に深い関心をもちました。これからは友と語り、婦人部で語り合い、火の取扱いに十分注意をしていきたいと思ひます。

このほか一日消防士に参加したつぎの方々からも、感想文が寄せられています。(敬称略)

- ・宮川早苗(大町)・井町智子(島松東町)・越前キク子(中央)
- ・河井いき子(漁太)・島田千恵子(島松東町)・山下朝子(穂栄)

春先は火災の多発期



昭和53年の火災発生状況

区 分	内 訳
火 災 件 数	・建物火災12件・林野火災 0件 全 焼 火 災 8 件 ・ 車 輛 火 災 3 件 半 焼 火 災 3 件 ・ 其 他 火 災 1 件 部 分 焼 火 災 1 件 計16件
焼 損 棟 数	全焼8棟・半焼3棟・部分焼1棟
焼 失 面 積	建物 1,114㎡ 林野 0㎡ (全焼953㎡・半焼121㎡・部分焼40㎡)
罹災世帯数及び 罹 災 人 員	8世帯 22人
損 害 見 積 額	58,761,000円 建 物 32,782,000円 内 容 物 25,560,000円 其 他 419,000円
死 傷 者	死 者 0 名 傷 者 1 名

恵庭市

16件の火災発生

昨年の全道火災発生状況を見ると、発生件数2,570件(前年比32件減)、焼死者125人(同22人減)、負傷者399人(同60人減)、損害額約71億円(同7億円増)となっています。

恵庭市における火災発生状況は発生件数16件(前年比5件増)、焼死者0人(同1人減)、負傷者1人(同1人増)、損害額約58,761千円(同2,018千円減)となっています。

部分焼1件、車輛火災が3件、その他の火災が1件です。火災発生原因は、全国的には「たばこ」や「たき火」が上位を占めていますが、恵庭市の場合には「アードライヤーや電気こたつなど」「電気器具による出火」(5件)、「放火」(4件)となっています。また、月別傾向では、約8割が1月から4月の春先に集中していますので、火の元は十分気をつけて、火災のない住みよい街づくりをしましょう。

消防白書のなげき

8分13秒ごとのできごと

昭和53年版「消防白書」によると、52年中に全国で63,974件の火災が発生し、1,909人の死者と1,293億円の損害をだしています。

このことは、全国どこかで、8分13秒ごとに火災が起こり、1日当り5,500万円もの貴重な財産が灰になっていることとなります。火災の原因は、「たばこ」、「たき火」、「火あそび」の順で、あい変わらずワースト3となっています。火災は、あなたの財産を灰にするばかりでなく、厚い生命まで失います。また、隣近所に火災迷惑をかけることにもなりますので、火の元に注意するとともに、万一の火災に備え、避難の方法について家庭の中で話し合ひましょう。

無火災地区を表彰しました

市消防本部では過去5年間、無火災である町内会を表彰していますが、本年は2地区を54年第1回駐在主任会議の席上を借り、表彰しました。
今回の表彰は昭和49年1月1日から53年12月31日まで無火災であった地区で、北島駐在区と駒場南町内会の2地区です。

注意

火災とまちがわないでください

消防職員冬期消防合同訓練を実施します。なお、訓練時に発煙筒をたきますので、火災とまちがわないでください。

日時 3月7日(土) 午前10時
場所 青年の家(西側の空地)

つぎの給油はできません

燃料タンク(容器)などに灯油をいれる時、移動タンク貯蔵所(タンクローリー)からは、つぎのような灯油の給油は禁止されています。
・屋内に設置してある石油ストーブの燃料タンク(20ℓ・90ℓ)などへの給油
・建物内で、20ℓ容器(携行缶)などへの給油



救急車の出動は

過去最高の473件

市消防本部がまとめた53年救急活動状況は、出動件数473件(前年比10件増)で一日平均約1.3件と過去最高を記録しました。
救急事故種別では交通事故による出動が激減した一方、急病、転院搬送のための出動増加が目立っています。また、搬送者傷病程度も軽症が減り、重症250人(前年比18人増)、重症114人(同23人増)、死亡5人(同4人増)傷病程度の重いのが目立っています。
医療機関への搬送状況では、交通事故、労災、一般負傷などのほ

とんどが外科、整形外科に集中していますが、夜間急病診療所への搬送数が全体の約17%、73件と目立っています。とくに、急病関係では年間199件中60件、実に30%を引き受けており、同診療所の重要さを証明しています。
しかし、最近の事例をみますと必ずしも救急車を必要としない場合が多く見られます。このようなどきに重病患者がでた場合、救急車の利用ができなくなり、手当が遅れてしまうことがありますので、市民のみなさんのご協力をお願いします。

救急活動状況

▲は減

区 分	件 数		増減
	52年	53年	
火 災	0	2	2
自然災害	0	0	0
水 難	1	2	1
交 通	102	79	▲23
労働災害	13	19	6
運動競技	12	7	▲5
一般負傷	54	55	1
加 害	8	6	▲2
自損行為	11	10	▲1
急 病	203	217	14
転院搬送	41	60	19
医師搬送	6	6	0
資材搬送	1	0	▲1
そ の 他	11	10	▲1
合 計	463	473	10

○消防庁舎について……
消防庁舎の移転改築費は本年度
3億4、869万円を計上、鉄筋
造2階建1、460平方メートル
の規模で、年内完成予定をしてい
ます。



一日消防士になって

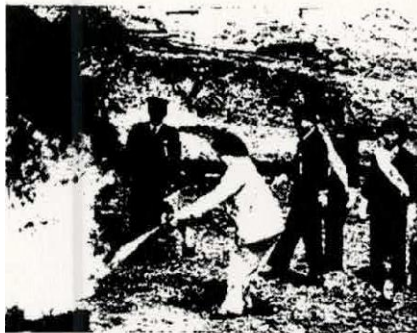
大町133 下原敏枝

このたび、柏地区婦連協からお話をいただき、消防については消
化器使用の 験もない私でしたが、
もしもの時に役立てば幸いと、参
加させていただいた次第です。

当日はまず、三浦消防長より委
嘱状とリボンを交付され、一日消
防士としてのタスキを肩にかけら
れますと、さすがに緊張いたしま
した。それから概況説明があり、
火災予防関係について講義にはい
りました。内容で皆様に認識して
いただきたい事をあげますと、電
気製品のコンセント、スイッチの
抜き忘れや切り忘れなど、不注
意から起きている失火の多い事
です。また、子供の火遊びから起
きる火災も、かなりあるようです。
にげおくれで焼死をふせぐため、
乳幼児や老人は、1人にしないこ
となど、種々参考になる講義をう
けたあと、消防施設、装備の説明
後、火災や救急の出動訓練です。
はたして、どの位時間がかかるか

タイムをとってみると、消防車は
電話があつてから、出動するまで
約1分。救急車は30秒でした。普
段はこれより多少時間がかかるそ
うです。訓練されている消防士の
皆さんの、てきぱきとしたすばや
い動作を目のあたりにして、本当
に感動いたしました。

最後に、自分で消火器を使って、
消火実験を行ったのですが、思っ
たよりうまくいかず、これが本当
の火事だったらと冷汗がでました。



家に消火器があるからといって、
安心せず、普段からの訓練を必要
とするようです。
春の異状乾燥期を迎え、火災を
出さないように注意することを、
あらためて認識すると同時に、貴
重な経験をさせていただきまし
たことを、深く感謝いたします。